

暮らしを継承する八女福島の町家再生と地域活性化



福岡県 八女市
八女町家ねっと・八女市

1 社会資本の概要

福岡県八女市の中心市街地・福島は、江戸時代から八女地方の経済の中心地として発展し、商家町として栄えた場所であり、平成になっても、歴史的建築物（＝町家等）が250棟以上も残っていました。しかし、1991（H3）年の台風被害により、数棟が取壊されるのを見た住民は、市民団体を発足させ、



八女福島地区の町並み（重伝建地区）

町並み保存活動を開始しました。行政も協力して、町家等の修理・修景事業を進めるため、「街なみ環境整備事業」（国土交通省）を1995年度（H7）からスタート。2002年（H14）には国の「重要伝統的建造物群保存地区」（＝重伝建地区）の選定を受け、保存整備を加速させました。



丸林本家北棟 修理後

3 活動の成果や波及効果等

空き家を含む町家の修理・修景事業の再生実績は累計142棟となり、移住28家族が定住することでまちの担い手が徐々に確保されており、子供会の復活等含め地域コミュニティの維持が図られています。再生空き家へは新規店舗が30店を超え、魅力店舗へのリピーター増加、観光客増加と相まって、イベントを含む来訪者は1993年の年間5万人から現在では20万人に増加し、地域経済への波及効果を創出しています。

移住者による魅力的な新規店舗の増加で、地元若手店主にも経営への創意工夫が生まれ、地域の魅力づくりの一端となっています。

また、修理・修景事業では大工等職人の技術の伝承が広がり、大工棟梁に若者が弟子入りする現象も生まれ、福岡県内のヘリテージマネジャーとの連携・情報交換・交流も活発化し、各地の技術向上へと拡大しています。



修理現場見学ツアー



地元小学生の土壁塗り体験

喜びの声



受賞者

八女町家ねっと代表 北島 力

コメント

八女福島の町並みは保存整備が進み、継続したまちづくりで魅力が蘇ってきた。増加した来訪者に八女福島らしいおもてなしをするため、空き町家を再生活用した分散型宿泊事業を進めている。そのコンセプトは、地域の文化や歴史を体感でき、「住まうように泊まる」である。受賞を契機にまちづくりを更に推進する。

活動の内容

- ・町並み及び町家等の保存継承
- ・伝統建築技術の育成と継承
- ・空き町家の再生活用と移住受入
- ・地域コミュニティ持続
- ・交流人口の拡大と地域活性化

活動の経緯

- 2009年 八女福島のまちづくりが「プロジェクト未来遺産」（日本ユネスコ）登録
- 2012年 八女町家ねっと発足（4つのまちづくりNPOが連携）
- 2013年 記録映画「まちや紳士録」を製作し全国上映
- 2017年 旧八女郡役所を再生活用

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

町家等の保存整備が進む一方で、少子高齢化・人口流出により空き家が増加し、コミュニティ維持が危ぶまれていました。そこで地域コミュニティ維持のための移住者と家主のマッチング推進による積極的受入や町家等の修理・修景事業を担う技術・技能者の確保と育成、地域資源である仏壇・提灯・ひな人形などの伝統産業との連携に工夫しながら、「雛の里八女ぼんぼりまつり」「八女のまつり あかりと

ちゃっぽんぽん」などを行い、個性的なまちづくりを展開しています。

空き家再生では家主に代わり事業代行して再生活用できるソーシャルビジネスに取り組んでいます。また八女福島の活動は、記録映画「まちや紳士録」の上映活動などを通じて、まちづくりネットワークの拡大しています。



土壁塗りボランティア



八女のまつり あかりとちゃっぽんぽん



新規店舗のアンテナショップ

所在地

福岡県八女市の中心市街地

活動主体及び連絡先

八女町家ねっと（090-8413-6128）

対象となる社会資本

八女福島の町並み（街なみ環境整備事業、伝建事業）
※管理者：八女市役所地域振興課町並み景観係

